

## 令和 2 年度カルタヘナ法第一種評価手法検討委員会【報告】

独立行政法人製品評価技術基盤機構  
バイオテクノロジーセンター生物多様性支援課

## 1. 背景・経緯

- NITE では、経済産業省所掌に該当する遺伝子組換え生物等の第一種使用に係る制度基盤整備、特に生物多様性影響評価実施ガイダンス策定に向けた検討を昨年度より開始。
- NITE において第一種評価手法検討委員会を開催し、微細藻類の開放系使用を念頭に、生物多様性影響評価における評価項目の枠組み、作業計画及び試験手法の妥当性や試験結果等を審議いただいている。

## 2. 委員会の開催結果

- 今年度委員会を計 3 回開催。日程と主な審議・承認事項等は以下の通り。
  - 第 1 回 8/28 (ウェブ開催：前回報告済)
    - ◇ 共同事業先および供試株の紹介
    - ◇ 閉鎖系試験結果の評価
    - ◇ 開放系試験手法の確認
    - ◇ 今後のスケジュール
  - 第 2 回 11/6~12 (書面審議)
    - ◇ 遺伝子組換え微細藻類の開放系使用に係る生物多様性影響評価の実施手法の整理について (実施手法の項目欄や説明について整理を行い、委員会の承認を受けた。今後とも試験や文献調査等の結果を反映していくこととした。)
    - ◇ その他 (本委員会名簿の公開の承認 (別添参照))
  - 第 3 回 1/27 (ウェブ開催)
    - ◇ 開放系試験結果報告 (手法や結果について見直すべき点等はなく、引き続きこれまでと同様の手法で開放系試験を実施していくことが確認された。)
    - ◇ 以下 3 種の閉鎖系試験の結果報告及び試験手法の改善点 (閉鎖系試験の結果、今回使用した株については、宿主/親株と遺伝子組換え株との間で、環境微生物叢に対する影響の傾向及び生存/生残性の点で基本的に違いはなく、遺伝子組換え株が他の微生物を減少させる性質を有してはいないと推察されることが委員会で確認された。各試験手法の改善点について幾つか指摘があり、今後の試験に反映することとした。)
      - 環境水中生存/生残性試験
      - 環境ゲノム解析試験
      - 微生物生育阻害試験

## 3. 今後の予定

- 来年度早々に次回委員会を開催し、ガイダンス案および SDN-1 の情報提供書（案）の審議、試験結果の評価を行う予定。
- 来年度を微細藻類の検討の最終年度としており、開放系試験を含め年内に試験を終了し、年度末の委員会にて試験の最終報告を行う予定。

以上

## カルタヘナ法第一種評価手法検討委員会名簿(\*は委員長)

- 加藤 美砂子\* お茶の水女子大学 副学長・基幹研究院自然科学系 教授
- 伊藤 元己 東京大学大学院 総合文化研究科 教授
- 鎌形 洋一 産業技術総合研究所 生命工学領域 領域長補佐
- 河地 正伸 国立環境研究所 生物・生態系環境センター 生物多様性資源保全研究推進室  
室長
- 駒井 武 東北大学大学院 環境科学研究科 教授
- 原山 重明 中央大学研究開発機構 教授
- 福澤 秀哉 京都大学大学院 生命科学研究科 教授
- 藤田 信之 東京農業大学 生命科学部分子微生物学科 教授